



2012年(平成24年) 発行所 盛岡タイムス社
 〒020-0015 盛岡市本町通3丁目9番33号
 電話 (019) 653-3111(代) FAX (019) 622-5119
 HP http://morioka-times.com
 Eメール hensyuu@morioka-times.com
 月決め 2,200円 1部売り 100円

11月8日 (木曜日)
 第14956号

(1) 2012年(平成24年)11月8日 (木曜日)

思いと感謝のリンゴ 城内学童 かわいキャンプへ贈る

盛岡市玉山区の城内学童クラブ(城内小学校内)に通う児童が7日、リンゴ約50個を被災地ボランティアが宿泊する宮古市川井のかわいキャンプ(岩館仁所長)へ送り出した。リンゴはボランティア活動の従事者のため、児童が5月から大切に

育ててきた。同日はリンゴを栽培した13人の児童が集まり、思いを込めてリンゴを見送った。同クラブの竹澤大智君(6年)は「僕たちもボランティア活動に参加したいが、機会があまりない。被災地で活動するボランティアの人たちの力になりたい」と思い、リンゴを育てて贈ることになった」と話す。

児童たちは授業や修学旅行などで沿岸被災地を見た際「自分も復興の力になりたい」と思ったという。滝沢村の盛岡農業高校の協力を得て摘果や袋かけ、収穫などの作業を5月から10月まで行ってきた。リンゴの一つ一つに「ありがとう」と「絆」などの文字を入れ、自分たちの思いを精いっぱい込めた。

地を見学したとき、ボランティアの大切さが分かった。リンゴを贈ることでボランティアの思いを込めてリンゴを見送った。



かわいキャンプに送るリンゴを持つ児童たち

の人たちに元気なランドとふじ。到着予定は10日。盛岡市社会福祉協議会が児童の思いも詰めて届ける。

～わんぱく講座「果樹編」(盛岡農業高等学校 植物科学科果樹担当 寺長根先生・吉田先生指導のもと)のまとめ

「被災地ボランティア拠点かわいキャンプへリンゴの贈呈」2年目になります!～

平成24年11月8日(木)

新聞「岩手日報」

に掲載されました！！

元気リンゴ 奉仕応援

かわいキャンプ(宮古)に贈る

盛岡・城内
児童クラブ



被災地ボランティアを元気つけようと、リンゴやメッセージを贈った城内小の児童

盛岡市玉山区玉山の城内児童クラブ(小野綾子所長、児童13人)は7日、宮古市川井の被災地ボランティア拠点施設「盛岡市かわいキャンプ」へ、児童が育てたリンゴとメッセージを贈った。

贈呈式は城内小で行われ、児童が同クラブを運営する盛岡市社会福祉協議会の熊原実玉支所長にリンゴを

手渡した。リンゴは児童が盛岡農高での体験学習で栽培。表面にテープを貼り、「絆」「ありがとう」などの文字を入れた。リンゴ栽培の様子を写した写真や、児童が書いた絵やメッセージも贈った。熊原支所長は「心のこもった贈り物で、ボランティアの苦勞に込めるものだと思います」と感謝した。リンゴの贈呈は2年目。城内小6年の右京知世さん、竹沢優希君、竹沢大智君は「被災地に直接は行けないけど、皆さんを元気づけて」と力強く話した。

～わんぱく講座「果樹編」のまとめ～

(盛岡農業高等学校 植物科学科果樹担当 寺長根先生・吉田先生指導のもと)

「被災地ボランティア拠点かわいキャンプへりんごの贈呈」
2年目になります！